質問コーナー

質問

高齢の母は、最近言葉が上手く出ず、しゃべりにくさが見られています。脳が損傷されると失語症になると聞いたことがあります。それと構音障害？というのもあるそうですが違いがわかりません。

回答

構音障害による「話せない」というのは、主に筋肉の麻痺が原因です。つまり、足に麻痺がある為歩くのが困難というのと同じで、話すときに使う舌や唇などが麻痺し、言いたい音を言うことができない、発音がおかしくなってしまうというようなことが起きます。

構音障害の場合は、主に話すときの筋肉の問題ですから、「話す」以外の聞く、読む、書くといった側面は保たれています。それに対し、失語症は脳の言語野という領域が損傷されて起きる疾患です。言語野は、聞く、話す、読む、書く、という言語機能全てを司っています。失語症になると、話す際に、言いたい言葉が思い出せないという症状が出ます。また、言いたい言葉と違う音が出てしまうということもあります。これは発音の仕方が記憶されている言語野が損傷されたために、ある音を出すための口の動かし方がわからなくなっている事が原因で起こる事で、麻痺によるものではありません。

そして失語症の場合は、話す以外にも、聞く、書く、読むといった機能にも障害が出ます。そのため、「話す」ことでのコミュニケーションが取りづらい際、「文字盤を使う」「書いてもらう」という代替手段は構音障害の人には有効であることが多いのに対し、失語症の患者さんには適応できない場合が多いです。

現場で話せない患者さん、利用者さんに接する際、何の障害が原因で話せないのか把握すること、また他の合併している要因はないのかしっかり見極めた上でその方に適切なコミュニケーション方法を考えることが大切です。

（老健 言語聴覚士）